

# 記念式典・祝賀会

## 峰山高等学校創立 100 周年記念式典・祝賀会

峰山高等学校創立 100 周年（1922 年創立）を祝う記念式典が、晩秋には稀な快晴の空のもと 2022 年 11 月 12 日峰山高等学校体育館において、在校生の半数と関係者約 450 人が一堂に集まり行われました。

国歌・校歌を心の中で斉唱したあと、中道浩学校長の式辞に続いて、創立 100 周年記念事業実行委員長である野木三司同窓会長が挨拶を行い、



野木会長から峰山高校へ記念品目録贈呈



中道 浩 学 校 長      野木 三司 同 窓 会 長      古川 博 則 副 知 事      前川 明 範 府 教 育 長      中山 泰 市 長

2018 年に記念事業実行委員会を組織して以来、記念式典を迎えるまでの関係者への感謝と『峰山高校に関わる全ての皆様が、後に続く人々の幸福に貢献すべく、新たな歴史を力強く歩むことを祈念する』と未来へ託す言葉を述べました。

さらに、西脇隆俊京都府知事（代理 古川博則副知事）、京都府教育委員会前川明範教育長、京丹後市中山泰市長からお祝いの言葉が続きました。記念事業寄付目録贈呈では、野木実行委員長から『創造的活動のための多目的エリア整備品一式』が峰山高校へ贈られ、前川教育長から感謝状が読み上げられました。

最後に、100 周年を迎えた峰山高等学校の現役生徒を代表して、田崎明務生徒会会長が『先輩たちが繋いできた峰山高校の歴史と伝統を、これからは私達が未来へ繋いでいくことを約束します』と強い決意の言葉を述べ、記念式典は終了しました。式典参加者には、記念品として地元京丹後市の会社が製造した木工製品が配られました。



田崎 明務 生徒会 長

式典に参加した同窓生からは『在校生代表から、たのしい言葉を聞くことができ、これから 100 年を歩む峰山高校は、丹後地域をリードする高校として、ますます発展をしていくことを確信した』と

の感想が聞かれました。

式典終了後、『持続可能な脱炭素社会に向けた挑戦』と題して、卒業生の環境省水・大気環境局水環境課大井通博課長を迎え記念講演会が行われました。

記念式典の同日、会場を市内のホテルに移し『記念祝賀会』が行われました。祝賀会のオープニングでは、卒業生で峰山高校の音楽担当高尾純加先生のフルート演奏が披露され、過去から現在までの校舍映像を見ながら、約 100 名の関係者で創立 100 周年を祝い、この記念すべき節目に立ち会えたことを、参加者全員で喜び合いました。

また、祝賀会では平井公彦丹後広域振興局長から、峰高への期待の言葉をいただきました。



平井公彦 振興局長

高尾純加先生のフルート演奏



# 記念講演会

環境省水環境課長

大井 通博氏



プロフィール

1989 年峰山高校卒。1995 年京都大学大学院理学研究科修了、環境庁（2001 年より環境省）入庁。大気環境保全地球温暖化対策、化学物質管理などに携わる。2008～2011 年経済協力開発機構（OECD、パリ）へ出向。2011 年 8 月より地球環境問題交渉官、国際地球温暖化対策室長として「パリ協定」の国際交渉に関与。2016 年環境影響審査室長、2018 年研究調査・気候変動適応室長を経て 2022 年 7 月より現職。

## 自然に恵まれた故郷丹後のありがたさを胸に、「地球人」としての自覚 環境マインドをもって 21 世紀を生きるため、やりがいを探そう！

（記念講演「持続可能な脱炭素社会に向けた挑戦」から）

記念講演では、本校を 1989 年 3 月に卒業された弥栄町和田野出身の大井通博さん（現・環境省水環境課長）が「持続可能な脱炭素社会に向けた挑戦」と題し、お話されました。

大井さんは峰山高校卒業後、京都大学理学部を経て同大学院理学研究科修士課程を修了。その後、英国のイースト・アングリア大学環境開発学修士課程を修了。環境省入省後は、気候変動や地球温暖化問題などに取り組んでこられました。

講演では、わが国や世界の環境政策の変遷について順を追って詳細にお話いただき、現在、世界的に 2050 年を目標に進む「カーボンニュートラル」の取り組みの重要性、また SDGs の考え方などをわかりやすく話していただきました。

また、大井さんご自身、COP21（第 21 回気候変動枠組条約締結国会議。2015 年フランスで開催）にも参加されました。

日本ではイタイタイ病や水俣病などの公害問題から 1971 年に環境庁が発足。その後、世界ではオゾン層の破壊や地球温暖化、生物多様性の損

傷などが課題となり、1980 年から 90 年代にかけて地球全体の環境問題に発展。1992 年にブラジルで開催された地球サミットでは、30 年先を見通した「持続可能な開発」のため、気候変動、生物多様性の保護、砂漠化の防止などに取り組むことを確認。日本では 2001 年に環境庁を改めて環境省が



発足、低炭素、資源循環、自生共生社会等を合言葉に持続可能な開発が目指されるようになりました。

その後、環境省の守備範囲は次第に拡大し、脱炭素に向けた世界の動向と軌を一にした取り組みが行われるようになりました。大井さんは、この間、日本及び世界の環境問題に環境省キーマンとして取り組み、活躍してこられました。

大井さんは講演の最後に、峰山高校の後輩に向け、自分にとってのやりがいを探そう、21 世紀をたくましく生きるため「地球人」としての自覚、環境マインドを持とう、また、丹後の良さを存分に感じて、自然に恵まれたふるさと丹後のありがたさをいつまでも忘れないでほしい、と言葉を結ばれました。



## 弥栄分校閉校記念碑の設置

峰山高等学校弥栄分校は、昭和23年9月、前身の京都府立峰山工業高等学校の定時制課程（農業科）として開設され、幾度かの改編を重ね、今日まで73年間の長きにわたり、地域の教育拠点として数多くの人材を輩出してきました。残念ながら2022年（令和4年）3月末をもって、その長い歴史に幕を下ろしました。

峰山高校創立100周年記念事業の一環として、多くの方に寄付をお願いし「弥栄分校閉校記念碑」を設置し、令和4年3月1日に挙行された弥栄分校閉校式に引き続き、閉校記念碑除幕式を行いました。この完成した記念碑が、皆様から愛された記憶と、その長い歴史を留める一助となれば幸いです。



〈閉校記念碑〉除幕式での中道校長

## 次の100年に向けた「峰高エリア100」を母校に整備

峰山高校創立100周年を記念して、在校生が楽しく潤いのある学校生活を送ることができ、多様な学習環境に対応できる多目的教室として「峰高エリア100」を2号館2階の家庭経営室に整備しました。

この記念事業は、「100周年の記憶に残ること」、「100周年をスタートとして持続可能なこと」などを観点に、同窓会記念事業部会で事業内容の検討を行ってきました。さらには、3年生のアンケート調査や1年生を中心にワークショップを重ね、整備内容の話し合いを進めてきました。その結果、教室活用には大変厳しい制限がある中でしたが、生徒の様々な意見や想いを可能な限り実現することを目指し、家庭経営室に備品整備を主とした多目的エリア「峰高エリア100」を整備することができました。

整備コンセプトは、創造的学習エリア（グループ討議やワークショップ会議の拠点）、リフレッシュエリア（生徒の自主活動展開の拠点）、地域連携エ

リア（郷土を愛する探究活動の拠点）、同窓会エリア（同窓会の活動拠点）として峰山高校の魅力向上を図ること。具体的な整備内容は、可変設置可能な机や椅子、仕切り兼用のホワイトボード、一人ぼっち席、カウンター席、展示用棚などの備品設置となりました。

この記念事業の費用は、創立100周年の記念、さらに次の100年に向かうための母校の記念となることを願った同窓生の、多額の募金で賄うことができました。峰山高校は、府立高校再整備計画の中で府北部地域の重要拠点校として「峰山高校」の名称が継続されます。その学校内に整備された「峰高エリア100」には、『在校生が自主的管理・運営して、教育スローガン「求めてやまじ 高き理想を！」を実現するための活動エリアとして活用してもらいたい』との同窓生の強い願いが込められています。



2号館2階 家庭経営室に整備された「峰高エリア100」

## 1日限りの峰高祭

2022年10月16日（日）に同窓生による「1日限りの峰高祭」が校舎内各会場と御旅市場サテライト会場で開催されました。中庭ではオープニングで野木会長・中道校長の挨拶後、吹奏楽部の演奏、書道部のパフォーマンス、DJブースでのOBインタビュー実況放送で盛り上がりました。

とりわけ吹奏楽部の校歌の演奏には胸が熱くなりました。



野木実行委員長開会挨拶 書道部パフォーマンス



### 体育館展示

体育館では、峰高出身者の有名人紹介コーナー、美術部・書道部の作品展示、100年前の校舎が映ったDVD上映が行われました。渡り廊下には4コマ漫画の展示、峰高エリア100では昔から今日までの卒業アルバムが展示され昔話に花が咲きました。



渡り廊下の4コマ漫画展示

峰高のスクールライフがうまく描かれた4コマ漫画展示では皆さんの笑顔がこぼれていました。

工場棟2階にある「みね☆すた」では、軽音楽部や峰高OBの演奏が行われ、大いに盛り上がっていました。

御旅市場ではキッチンカーも来て、豪華なランチを楽しみました。



御旅サテライト

### みね☆すたコンサート



木下優真

ダリル永岡

UNCHAIN

対話ブースでは思い出話で盛り上がりました。



渡利元校長 垣中元校長

井上高司さん

小牧徳彦さん

芦田久美子さん

荻野清孝さん

創立100周年記念事業  
**特別講演会**

**峰高生の皆さんへ**

令和4年9月9日

韓氏は、未来ある峰高生に「人はそもそも平等ではない」「能力の差は、優劣があるのではなく、違いがあるだけ」「自分の特徴（好きなこと、得意な事）を知る」などのキーワードを挙げ、峰高生の自分自身の心の持ち方を教示されました。

さらに韓氏は、将来の生き方について「大事なことは自分で決める」「スペシャリストを目指す」「クオリティとオリジナリティ」「人生=実行」などのキーワードで、峰高生に熱く語っていただきました。

株式会社マルハン  
代表取締役 韓 俊 氏 (ハン・シュン)  
(峰山町出身)



**人生において人との出会い～関係性の重要性～**

令和4年10月14日

ファイテン株式会社  
代表取締役 平田 好宏 氏 (昭和47年卒業)



平田好宏氏は、峰高生に「やりたいことに立ちだかる壁があっても、強い想いがあれば必ず壁は崩すことができる」「問題に直面したときは、自分だけの価値観にとらわれず、多角的に問題を捉え、他に方法はないのか、解決方法を探ってみること」などをアドバイスされました。平田氏自身は、来年70歳になっても現状に満足すること無く、あと15年、85歳になるまでは引退せずに頑張りたいとの覚悟を宣言されました。

**同窓生・PTAとの懇談会** 令和4年10月25日

峰高エリア100において質疑応答形式で平田社長との懇談会が行われました。(次はその一部です)

**会社経営とは？**

(平田社長) 常に明確な目的意識を持って行動し、組織メッセージを持つことが大切。社員と同じ価値観をもつことの重要性を大切に会社経営をしています。

**有能な人材とは？**

(平田社長) 切磋琢磨でき、人を蹴落としたり、人を見下したりしない人。仲間づくりが出来て、助け合い、信頼関係が築ける人。才能・能力プラス説得力の構築ができる人。

平田社長には、他にも多くの質問に真摯に対応していただきました。



**100周年記念品の製作**(令和4年度課題研究として) [機械創造科]

**1. 光るレンガ調のアナログ時計**  
(モニュメント)

座学で学んだ設計や材料の知識、実習で学んだ溶接やレーザー加工等の技術が生かせ、自分たちの思い描いた通りの製作ができました。学校や同窓会の意見も取り入れました。



**2. 保健室テーブル**

縦600mm、横1050mmの机2台を制作。天板には清潔感のある白い木材のパイン集成材を使い、100周年記念のロゴを入れました。1つの端は丸く(保健室の要望)仕上げました。



**3. 六角形テーブル**

木材は強度のあるタモ材を使用し、対角200mmのサイズで、天板には大きな100周年記念のロゴを入れました。LIBRAに設置します。



峰山高等学校創立100周年記念事業実行委員会

実行委員長 野木 三司

事務局長 今田 弘一

実行委員会顧問 垣中 均

渡利謙太郎

平井 清司

長島 雅彦

アドバイザー 中村 雅

小牧 敬典

実行委員会監事 糸井 錦

豊田公仁子

募金部会

部会長 大同 一生

部会員 山本 正

井上 敏

錦織 幸子

柳田恵理子

田中 智子

会計事務部会

部会長 今田 弘一

部会員 京崎 操

赤松 栄

味田 佳子

宮腰 仲世

松本久美子

笠井 昭宏

井上 繁之

上田 将太

学校・庶務

記念式典・祝賀会部会

部会長 田中 智子

部会員 西垣 光俊

堀 孝之

山田 勝

富倉江里子

徳田 隆男

中村 博

嶋田健一郎

古橋 直明

学校長

副校長

分校副校長

学校事務長

学校・庶務

分校・庶務

PTA会長

PTA副会長

中道 浩

榎木 教久

荒木 伸

松下 康彦

井上 繁之

行待 利康

日下部 修

山本 浩司

多賀野理江子

松崎 英樹

名簿広報部会

部会長 味田 佳子

部会員 平井 邦生

吉岡 美和

梅田 匡純

松本久美子

宮腰 仲世

荻野 清孝

永岡 晃

寺田 康子

記念誌部会

部会長 巽 昭

部会員 高倉 宏尚

田崎 敬章

西村まさみ

福島美恵子

水野 孝典

小西 恭子

田村 浩章

廣瀬 正貴

顧問

垣中 均

渡利謙太郎

平井 清司

分校・庶務 行待 利康

記念事業部会

部会長 石嶋 政博

部会員 田崎 敬章

本城 稔恵

森 一彦

山本 一之

平井 良行

松本千代美

堀 紀博

吉岡喜三雄

安達 康高

金盛 将士

形山 恭子

弥栄分校閉校記念碑建立PJ

リーダー 野木 三司

顧問 平井 清司

メンバー 今田 弘一

味田 佳子

松本千代美

分校・庶務 行待 利康

分校・庶務 近江 裕之